

付箋No.	旧題	分限帳年	西暦	刊年		備考
1	永禄九より御家中分限帳記二					表紙「中川氏所持」定賢公までの新規召抱え藩士リスト、明和3年6月晦日(表紙に「8月」とあるが巻末の記録によると誤記)の分限帳、宝暦11年6月分限帳、宝暦3年、大鏡院様御百五十回御遠忌(寛政12年9月26日)、俊徳院様御代より前後不同書留 文化4年頃より文政8年頃まで、「今泉氏由緒書」
2	定綱公御代分限帳			元文2 寛政3	1737 1791	
4	寛永十九壬午ヨリ正保二乙酉迄四年之間今一冊					表紙「中川氏」、奥付に「右奥州白河にて菅沼長■所持写之 中川泰通」
5	慶安三庚寅年定綱公御代分限帳	慶安3	1650	明治31	1898	表紙「持主 岩尾惇忠」
6	慶安三庚寅ヨリ同四卯ノ間四					「白賁書院」印あり。
7	分限帳 慶安四辛卯着到					「白賁書院」印あり。
8	定重公御代 分限帳	貞享2	1685			表紙・裏表紙ハズレ。「白賁書院」印あり。
9	(表紙なし)定重公 御代始ヨリ					
10	高田御時代御家中分限帳					
11	(題箋なし)天和元正月	天和元	1681			「白賁書院」印あり。住居別の分限帳。
12	天和元辛酉宝永二乙酉 屋敷分限帳	天和元	1681			「白賁書院」印あり。
13	分限帳	貞享3	1686			「白賁書院」印あり。
15	宝暦十一年巳年六月 御家中分限帳	宝暦11	1761			「御右筆 五拾表五人 定府 川澄伊左衛門」
16	(題箋なし)	宝暦11	1761	安政6	1859	
17	(表題欠く)定綱公時代			安永7	1778	「白賁書院」印あり。
18	定信公御代分限帳 寛政二年戊九月改	寛政2.9	1790			
19	分限帳 文化(題箋)	文化年間	1804-18			「白賁書院」印あり。
20	(題箋なし)	文化6	1809			「白賁書院」印あり。
21	藩士歴世大略	文化6	1809			「九里」「岡本」「志賀」「杉山」「河合」「中川」「佐治」「須藤」「立見」「菅谷」「吉村」「岡本」のそれぞれの略譜。立見鑑三郎あり。
22	白河在城文化六巳年以來藩士歴世格禄大略	文化6.4.8	1809			情報量多い。
23	(表紙なし)居宅別分限帳(白河)	文政5	1822			
24	定永公御代分限帳 文政七甲申年	文政7	1824			「白賁書院」印あり。
25	天保三辰年 御家中分限帳	天保3	1832	万延元	1860	「白賁書院」印あり。虫食い酷い、展示不向き。
26	分限帳 寛文十庚戌 総着到	寛文10	1670	嘉永2	1849	「白賁書院」印あり。
27	安政二卯年四月改 無格分限帳	安政2	1855			「白賁書院」印あり。
28	分限帳 万延元庚申年八月吉日	万延元	1860			「白賁書院」印あり。「川澄忠左衛門」、120石。
29	文久元年辛酉御家中分限帳 夏四月	文久元	1861			
30	嘉永元二月二十八日改 御家中分限帳	嘉永元	1848			「白賁書院」印あり。川澄卯之助あり。
31	舞台格已下分限帳 嘉永四亥年十一月九日調之	嘉永4	1851			
32	(表紙なし)苗字一覧表1丁冒頭にあり					
33	(表紙なし)分限帳の後半分か？					
34	分限帳 表紙かなりに剥落					
35	分限帳 表紙鼠色					「白賁書院」印あり。
37	御家中分限帳					「白賁書院」印あり。
38	分限帳 完	慶応2	1866	慶応2	1866	「丙寅初秋」の書き込みあり。
39	御家中分限帳					
40	番組別分限帳					
41	(表紙なし)居宅別分限帳					「内堀中之丁 川澄忠左衛門」あり。
43	忍藩分限帳 忠雅公代					
44	忍家中分限帳 御国替ノ時					
45	薦野家中分限帳	嘉永7	1854			
46	(表紙なし)豊太閤治世諸侯知行者	明治3	1870			「白賁書院」印あり。「庚午秋八月 蛸庵識」。蛸庵は秋山白賁堂(1798-1874)。庚午は文化7年(1810)と明治3年(1870)なので明治3年が有力か。
47	藩翰略譜					「白賁書院」印あり。大名家の紹介。久松家もあり。
48	源定綱公御系譜	寛文12	1672			「白賁書院」印あり。
49	定綱公御系譜	寛文13	1673			「白賁書院」印あり。
51	久松改菅原氏久松松平姓御系図之写					かなり詳しい系図
52	御家中町割軒別名前前覚					「同所く内堀>中北側東ヨリ 川澄岡之丞」あり。
54	御家中御役順			文政12	1829	
55	御在府御留守江戸御法度書	宝暦13年	1763			
56	御留守通衆御届極					
57	定重公御代着到(五)寛文壬寅正月有増二改					
58	寛文年中着到	寛文2.正	1662	宝暦3	1753	
59	(端本年代不明着到)					
60	享保十年比着到(七)					「白賁書院」印あり。
61	(享保二十年被仰出)					
62	上使へ御得替二付桑名表膳之次第 文政六年癸未年九月廿八日					「白賁書院」印あり。裏に「東間利兵衛」
63	三席以上御聞書					作者は秋山白賁堂。
64	年中出仕装束之覚					
65	捨良礼毛世寿 一	明治4	1871			「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。「棄てられもせず」？
66	捨良礼毛世寿 二	明治4	1871			「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。
67	捨良礼毛世寿 三	明治4	1871			「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。
68	捨良礼毛世寿 四 天保二大武鑑、嶋津家列鑑全	文久2	1862			「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。
69	捨良礼毛世寿 五 横須賀組之記					「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。
70	捨良礼毛世寿 六 寛永三御参内行列その他					「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。
71	捨良礼毛世寿 八	明治5	1872	天保6	1835	「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。
72	捨良礼毛世寿 十 元禄公家要覧	明治6	1873			「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。
73	捨良礼毛世寿 十一 元治元大武鑑	明治6	1873			「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。
74	捨良礼毛世寿 十三	文久4	1863			「白賁書院」印あり。作者は「橘窓主人」。
76	(伊勢国桑名郡内…)					
77	(桑名藩庁記録)	明治9	1876			「白賁書院」印あり。
78	白河楽翁公と徳川時代	明治24	1891			
79	雜記					寛文～元禄の参勤交代記録あり。
80	御東行御行列記 慶応三戊辰年秋九月廿二日 京師御出觔 同月廿五日桑名御泊觔					「白賁書院」印あり。
82	戊辰之役 真鍋正謙筆記抄			明治9	1876	「白賁書院」印あり。「川澄金九郎あり」
83	(公方様年中)					「白賁書院」印あり。
84	正寛公覚書 御在役之内訳右筆認					
85	下風道二斎之事					「白賁書院」印あり。
86	宗門改旧記 元文	元文年中	1736-41			「白賁書院」印あり。
87	雪隠知行牒	天保13	1842			「白賁書院」印あり。
88	(上杉家九十六家)					
89	錦玉鈔拔書	弘化3	1846			
90	旧記集 完(寛文十二武鑑)					松平忠充の武鑑あり
91	正徳国武鑑					「白賁書院」印あり。
92	一統武鑑	正徳2	1712	辛丑		「白賁書院」印あり。高松氏秘蔵のものを「辛丑冬十月」に書写。「水野伊織」あり。
93	寛政五年武鑑					
94	桑名藩旧藩公御名表(印刷)					
95	組分け(桑名藩)分限帳					崇源寺とあるので、定綱時期と比定される。
96	桑名御家中分限帳	嘉永6.5	1853			図書分類シール(090-616)セロハンテープ貼り、裏面に「城西洛陽 双鑑主人」、年齢記載あり、
97	施米人別覚帳	嘉永4.4	1851			
98	立教館令条	文化6.10	1809			「立教館図書印」「■学館■印」あり。